



岷江入楚

横笛

弟六

特別  
~ 12  
4604  
36





43  
v12  
4604  
36





横笛

西十九屏

薰君二歳

小汀文庫

二月柏木権大納言一周三六条院修御誦經給事

朱雀汎猷等野老於入道宮給事

源氏見官所之復給事

若君握筆給事

秋大府訪一条宮給事

御見一所對面也 大将引和琴給事

女二宮引筆給事 贈物笛給事

大将拜我殿之下見右衛門給事

大将若君嘔吐母君腹立給事

大将為右束の傍候編經孫皇奇事

大将春六条院給事

云云之りりりり有白文

大将身抱之天象其所亦給事



大将奉見若君思出未可也  
大将奉見若君思出未可也  
大将奉見若君思出未可也  
大将奉見若君思出未可也  
大将奉見若君思出未可也

横笛

卷名以歌

松詞の只笛ト討有り

何れいふえ乃るうへいよらうねいしうくゝるうねいし  
源氏四十九歳ノ時でうらう二歳  
源氏四十九歳二月もくのも有柏友其の四十八才秋  
董二才自え三才討といへり  
横笛常ノ節也物してふい物といふんと云  
葉蘭葉草葉  
皆賢てけ常ノ節ハいり横にへんで  
田苗ハ滌也スレノッラ西ノ氣ヲ除クハ也



故行大納言のとうけりうせはらうしうしう

必柏木乃苑せしむるの事を見しり

因柏木昇を乃友うらうし 故ノ子班固傳よりかきり

少くもゆり物とみ入るに即し

大納言のけりて権友の官位は官権に差別を

大しよつひらうし

必ほ大なるけりしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

いしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必女乃えのしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必女乃ゆりしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

花ちうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

誦短歌

しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必さうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

必しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう



ほろろ乃其くも

和梅大卜下也

かゝらうし

必しは後世に伝へらるる事ありて

和梅大卜下也

西乃乃人よりいれりて父母乃人しはたか

なりし事ありて

朱雀乃後世乃つとある事ありて

入道乃人

必しは後世に伝へらるる事ありて

朱雀乃後世乃つとある事ありて

入道乃人

必しは後世に伝へらるる事ありて

朱雀乃後世乃つとある事ありて

入道乃人

必しは後世に伝へらるる事ありて

朱雀乃後世乃つとある事ありて

入道乃人

業典

伊蓮との事

ねらわたりたりか 年たふを 在例

身女ら女よりなりて

行並 兼 手 抽 丸 行

和鳴鳳管盤根 鏡點龍文 朗詠

大宮日記 延年長六年 享子 流

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院

冷泉院







こころのちかすをりとしつへんれが賀胡活行此此定欲海

春此世よとくわしししとつよなる家よりぬをりみ

そ

よの世のちかすをりとしつへんれが賀胡活行此此定欲海

ふゆえん

よの世のちかすをりとしつへんれが賀胡活行此此定欲海

そ

よの世のちかすをりとしつへんれが賀胡活行此此定欲海

そ

よの世のちかすをりとしつへんれが賀胡活行此此定欲海

そ

よの世のちかすをりとしつへんれが賀胡活行此此定欲海

そ

よの世のちかすをりとしつへんれが賀胡活行此此定欲海

あしれうとよんあはれをうつへるま

何地蔵本乳行と天子至親波路各別銀然相逢と首受

何海比花に乳行としりといははは信乃非解銀

何晶子又欄子和名 晶子 月上 晶 天作 鑄王晶 此は處

詩金晶とあるの箇簿べりいと判きと礼記の晶其形

似壺容や剗刻而書と為雲雷之形也

や菓子と入らぬとや内花祭と枝ゆ

草と入らぬとや内花祭と枝ゆ







第 四巻子し 河海アリ文ノらいついよ此スミ文ノ礼紙懸紙トス

くよりあまうれ 葉不又リケ

必朱雀阮の以又の判す(一)まののらいついよみとらいつい

これとあまのらいつい

にけしあめのみとらいつい

女とついでよあまのらいつい

いしついでよあまのらいつい

葉ののらいついよあまのらいつい

らいついでよあまのらいつい

深乃んたかりらいついでよあまのらいつい

らいついでよあまのらいつい

らいついでよあまのらいつい

必朱雀阮の以又の判す(一)まののらいつい

葉ののらいついよあまのらいつい

らいついでよあまのらいつい

らいついでよあまのらいつい

入道文乃此也(一)中後(一)たつたあまのらいつい

世ののらいついよあまのらいつい

世伊(一)たつたあまのらいつい

年 秘 葉皆用共リケ

朱雀乃のらいついよあまのらいつい

らいついでよあまのらいつい

必朱雀阮の以又の判す(一)まののらいつい

けあしあめのみとらいつい

必朱雀阮の以又の判す(一)まののらいつい

白

いしついでよあまのらいつい

必朱雀阮の以又の判す(一)まののらいつい

必朱雀阮の以又の判す(一)まののらいつい

ついでよあまのらいつい

必朱雀阮の以又の判す(一)まののらいつい

らいついでよあまのらいつい

必朱雀阮の以又の判す(一)まののらいつい



深乃るらうけりていかにあはれ  
后にぬめりてふらうけりていかにあはれ  
北にまきこころをいかにあはれ  
けし

けし

女書

けし

源の御

さうらうさうさう

紫文の御

か

唐の御

唐の御

けし

物

答

す

す

女書

ら

ら

ら

ら

葉

柳

何楊柳

ら

ら

ら

女書

ら

ら

女書

ら

ら

ら

ら

ら

ら

ら



何  
うつ不の物故よりねまははしく強ひて物ごとよ  
うりゆいしつこりしもの又世乃人しつ  
みまれしつこりしつねまや  
くし物よつこりしつねま  
ほ乃ぬりしつねま  
かきつこりしつねま

ほのうあつこりしつ  
いしつこりしつねま  
何やんしつねまのあま  
いしつこりしつねま  
景介よりしつねま  
女ありしつねま  
井のうあつこりしつ  
必の申え腹のあつこりしつ  
しつこりしつねま  
す柏木に似しつねま

と乃此れいゆくす

あしらいつこりしつねま

花のうあつこりしつ

何まに花乃こりしつねま

ま柏木は各音のしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま

あしつこりしつねま







落やうしる意のゆはかまる

ほ乃何しうや

ほ乃何しうや

ほ乃何しうや

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ











お夕音詞又妻乃山申るれは何しとて文此山に此  
白ふこそつりくつれとや 兼  
弄柏木より女二まへつりくつれとて申るれとて  
申といふんとて也見行ぬ  
志あつてもいふはぬす  
お用いこあまはぬし

月行いてくつりくるるるるねらるるするのしつ  
そとれぬうやうやうやうやうやうやうやうやう  
白やまのしつりくつりくつりくつりくつりくつり  
秋風よつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お雁不乱行つてし美  
女二まへつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
兼うやうやうやうやうやうやうやうやうやうやう  
うのしつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お泉おいひくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お琴をいひくつりくつりくつりくつりくつりくつり

お夕音詞又妻乃山申るれは何しとて文此山に此  
白ふこそつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
弄柏木より女二まへつりくつりくつりくつりくつり  
申といふんとて也見行ぬ  
志あつてもいふはぬす  
お用いこあまはぬし  
月行いてくつりくるるるるねらるるするのしつ  
そとれぬうやうやうやうやうやうやうやうやう  
白やまのしつりくつりくつりくつりくつりくつり  
秋風よつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お雁不乱行つてし美  
女二まへつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
兼うやうやうやうやうやうやうやうやうやうやう  
うのしつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お泉おいひくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お琴をいひくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お夕音詞又妻乃山申るれは何しとて文此山に此  
白ふこそつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
弄柏木より女二まへつりくつりくつりくつりくつり  
申といふんとて也見行ぬ  
志あつてもいふはぬす  
お用いこあまはぬし  
月行いてくつりくるるるるねらるるするのしつ  
そとれぬうやうやうやうやうやうやうやうやう  
白やまのしつりくつりくつりくつりくつりくつり  
秋風よつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お雁不乱行つてし美  
女二まへつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
兼うやうやうやうやうやうやうやうやうやうやう  
うのしつりくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お泉おいひくつりくつりくつりくつりくつりくつり  
お琴をいひくつりくつりくつりくつりくつりくつり



ゆなう我乃よりけら枯へとよこまた人をとよま  
らるうしををけりよまつらや

まこるうしを二の川中と非をくかふるうしを  
然し

しんせ旅よつや

弄柏木けりさうて悪史悪よりけら旅よ

ましくつて海し

い悪史悪女乃けりよけらよひくさうしを曲

秘けりし旅よけりありや 弄柏木のけりし

ね史とよしひくさうて悪史悪りし

<sup>三音</sup>にむていねとよあ海よりけら人よけらけら  
けりよ下りあのをけりかつらけりよ

けり夕音のけりけりしにけりけりね史悪とけりね

んるり

秘夕音のけりけりねけりよああさうけりしけりけりねと

弄女二乃乃柏木のけりけりけりけりけりねけりね

よまらるうしゆんるりしけりけりあはれ人よけりけり  
しんせ

<sup>兼</sup>いにて琴かき人よけりけりけりけりけりけり  
ぬいあまらるる御よけりけりけりけりけり

くまつし

秘女二乃乃けりしけり 兼いのけりけりけりけりけりけり

秘和琴かきけりけり

<sup>兼</sup>女二乃乃秘琴かきけりけりけり悪史悪の末つしけりけりけりけり

けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
たせよのけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
こねし

弄大乃乃時音の感しなうしをけりけりけりけりけりけり

秘大乃乃時音を感しけりけりけり末つしけりけりけりけりけり  
けりけりけりけり下白ノ兼弄印

兼おらうし夜乃乃けりけり月しけりけりけりからり屋のけりけり  
林



風をこれ時感てはわかれかよふをわかれなうと物  
しんよの字に記されし初めはつれぬと

小つら人のらゝめく 私 忠更迄すし 夕音 ぶらゝめく

花と忠更迄のゆゑ 私 忠更迄すし 夕音 ぶらゝめく

~~~~~

私 夕音乃心で

~~~~~

夕音 乃心

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

私 柏木乃心

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ひさひさ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~







所さるるいよふかりんくもをん

いしま乃笛のひの大將乃たのなまあしんしん

かみてこののそふよあをいして笛のをめんあはれ

小つくりしうね笛方

を沸ふのそふとやすふのくまふつらにわね笛方

私さふのそふとふふつらに笛方とてふに

私相本れ秘花せし物なぞ

とれをぬめきつこ

花衣古来の花の弦ひしり

い笛の音乃音ノ介冬ふのく

と柏ノついで

いんじん人よつこ

盤法調 なううう盤法乃洞子を

むしとふしひうううう

か和琴といひしり

美相木と色ふ

小貝下り

も世のそふ

も世のそふ















業為紫花... 海... 山... 山...

夕音乃きほし

あやしれ物けのきもくや

夕音乃きほし

子乃あやまらう... 物... 山...

夕音乃きほし

いづ強いぬ

きぬの厚く句

ひ... 山... 山... 山...

夕音乃きほし

海... 山... 山...

夕音乃きほし

人乃ん... 山...

夕音乃きほし

業人乃純... 山... 山...

夕音乃きほし

か乃とれ... 山...

夕音乃きほし

夕音乃きほし

必柏木の葬し... 山...

夕音乃きほし

河... 山... 山...

夕音乃きほし

貴... 山... 山...

原... 山... 山...

に病... 山... 山...

夕音乃きほし

夕音乃きほし

夕音乃きほし

夕音乃きほし

業柏乃不... 山...

夕音乃きほし



くらしのしるしをけのんま

必傳子施せんといふこと

兼福徳の布施ふりてつとを物入天人乃執心ありつ  
くらしのしるしをけのんま

康保四年七月村上天皇六七聖忌小野宮被修諷誦和  
琴横笛木為衆僧布施産三伎諷誦草云有一龍笛  
蓋布代名物也

六条院

大音原(二)り

女師のいり

必明女師也 弄

くらしのしるしをけのんま

必白(二)り

くらしのしるしをけのんま 女師のいりよ海

くらしのしるしをけのんま

必世(二)り

くらしのしるしをけのんま 女師のいりよ海

くらしのしるしをけのんま

女師

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま 女師のいりよ海

くらしのしるしをけのんま 女師のいりよ海

くらしのしるしをけのんま 女師のいりよ海

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま

くらしのしるしをけのんま



美夕音れ世をわたりてんゆはむしものよて懐くる  
まのりかたうくさん

兼我とくくかうくさん夕音れくすくしとくふらま

必大將乃く人をのこわやうくさんとせ 矣

私算ノ系いへぬ矣ノ系也

必大將乃く人をのこわやうくさんとせ 矣

二ののり君といへく

何二の今上清子晴蛇冬はて 若君ハ世大將

いじり君うりかたのゆへ入道のまはにこまをあま

くま

美夕音れく方世と南くんあまゆれ申のむのる

明女清ノ系かて四かふく乃くゆへ

とみのふれり

必大將乃く人をのこわやうくさんとせ 矣

くま

あが大將とや

白ふれ吾大將とのあま

院と沙流て ぼく 花の系り 畧

あやけの山らままり

河世は大將は身と世接 彼官をけりてのほめ

くま

必大將乃く人をのこわやうくさんとせ 矣

くま

あが大將とや

手は乃山子とていふあまのふき

あまのふき

必大將乃く人をのこわやうくさんとせ 矣

あまのふき

あまのふき

あまのふき

あまのふき







りういふふゆい

柏木ののち推考しつゝ

らくめいしんいさうり

か後仁大信し

いしあうりしるゝ

いてい

か夕音らんきうりし

んふん

うらららんをえん

ぬいししししぬれ

か業とノれりて

うらりれつ業

か夕音乃すまゝん

ほうい

か夕音乃すまゝん

じし

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か











牡丹のうらぐさたるうらぐさに

い息子の母はよきかよの守りてとてうらぐさむすこ  
うらぐさのうらぐさのうらぐさ

東乃世のつらみ又つらみよきかよ いほのん

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ  
うらぐさのうらぐさのうらぐさ

すほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ

このまじりつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ

これいづれよきかよ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよ

いほのんはつらみよきかよのうらぐさのうらぐさ











